

「縁・えにし」のよろこび

～春季・彼岸会～ (2025年3月14日)

彼岸入りを前に開座しました。いつもはご講師をお迎えしてご法話をいただきますが、「春季・彼岸会」は隔年で住職が法話をしております。阿弥陀さま、そして皆さまのお育てに感謝感謝です。



～「元旦会」と除夜の鐘～ (2024年12月31日/2025年1月1日)

除夜の鐘が鳴り響く中に新年をお迎えしました。本堂でお勤めの後に、参拝者へ紅白餅(法語メッセージ入り)を配布しています。108個の紅白餅も全て無くなりました。ご参拝、有り難うございました。



～「親鸞聖人・報恩講法要」並びに「新納骨堂(第4納骨堂)落成法要」～ (2024年11月13・14日)

今年の「報恩講」は、新納骨堂(第4納骨堂)の落成法要を併せてお勤めしました。13日には雅楽の奏楽が入り、14日はお齋を仏教婦人会役員の皆さまにご準備いただきました。報恩講でのお齋再開を参拝者の皆さまが大変喜ばれておられました。ご準備有り難うございました。



～秋の仏教婦人会法座～ (2024年10月30日)

仏教婦人会法座は年2回開座しています。今回よりお齋が再開されました。那珂川市内の他のお寺(7ヶ寺)より仏教婦人会役員方々もご参拝されます。伝統的に「参り合い」という習慣があります。お齋再開の中、いつもの賑やかな雰囲気に戻ってきました。



～秋季・彼岸会～ (2024年9月19日)

残暑の中にも、多くのご参拝をいただきました。ご講師の北嶋師より阿弥陀さまの御心を尊くお取次ぎいただきました。お浄土に想いを馳せた彼岸のお時間でした。



～お盆法座～ (2024年8月13・14・15日)

ご先祖を偲ぶ尊い時間がお盆です。ご自宅のお仏壇内にある過去帳またはお位牌をご持参いただいた方々には、ご尊前にご安置してお勤めをしています。今ここに、いのちのつながりに感謝するのがお盆でもあります。



阿弥陀さまからのお手紙

『礼拝について』

福岡義朝 (広島県三原市 教専寺)

「一同合掌礼拝」とよく仏事で耳にされることと思います。礼拝とは深く頭を下げることですが、形だけ頭を下げるのではなく、頭を下げるその心が大切だと思います。頭を下げることで頭が下がるというのでは違います。多くのお陰により生かされていることを知らされて自らの頭が自然に下がってしまうのが仏法の働きです。

以前テレビであるドキメンタリーを観ました。不景気の中五十代の大手企業の課長さんが希望退職をして、その退職金で妻とラーメンのチェーン店を始める話です。チェーン店ですから資金は自分が出して自分で運営しても、看板やラーメンの作り方や食材は東京の本店の指導に頼るといシステムです。そこで店を始めるに当たってその脱サラした課長さんは一ヶ月間東京の本店にラーメンの作り方を学びに行くことになりました。さてその本店でラーメン作り等を教える店長さんは何とまだ三十歳くらいの若者です。他にも全国からチェーン店を始めようという人が何人かその店で修業していますが、元課長さんが一番の年配のようです。すると若い店長が一番上の課長さんに対して特に冷たく厳しく接します。最初課長さんは店の入り口に立ってお客さん頭を下げ

て挨拶をさせられます。「いらつしやいませ」お客さんが帰る時は「有難うございました」しかし若い店長は課長さんに怒鳴ります。「全く礼になつていない」彼は大声を張り上げて精一杯お礼をします。しかしそれでも駄目だと言われます。他の人はラーメンの作り方を厨房で教えてもらっているのに彼だけは来る日の入り口に立たされて頭を下げては挨拶をします。課長さんは屈辱感と悔しさで涙が流れます。彼はもの大企業の課長で多くの部下を指揮していたのです。それが息子のような若者に怒鳴られてばかりいるのです。彼のプライドは剥ぎ取られてゆきます。絶望の中でそれでも彼は毎日店の入り口に立ち続けます。するとどんだ底の彼にはだんだんとお客さんの表情が下から見られるようになります。家族づれのお客さんの中の幼い子が慣れない箸でラーメンをすすっているのを微笑みながら見つめます。その子が箸を落としたらすぐにかけよって新しい箸をやさしく渡します。お客さんが帰る時は心から「有難う」といいます。彼はどのお客さんにも顔を見て心からお礼をします。「いらつしやいませ」「有難うございました」その声は店内に響くようになります。すると若い店長が彼の所へ歩みよって来て両手が彼の手を握り締めます。若い店長さんの眼には涙が溢れています。「やっとお礼ができるようになりましたね。貴方と最初会った時とてもエリート意識の強い人だと感じました。貴方はお客さんを物のように見ていました。ですから貴方には特に厳しく当たりました。若造の失

礼をお許しください」でも本店の研修期間は一週間くらいしか残っていません。すると若い店長は言います。「ラーメンの作り方は誰でも二、三日で覚えられます。でも大切なのはラーメンの味なんです。味は心なんです。心とはお礼の心なんです。もう貴方は大丈夫です」と。 ※福岡先生は、今度の「永代経法要」のご講師です。

ホームページでは新聞や最新情報を掲載しています



HP QRコード

真教寺 那珂川

